

# 基本断面とバリエーション

## 基本的な考え方

### □基本断面

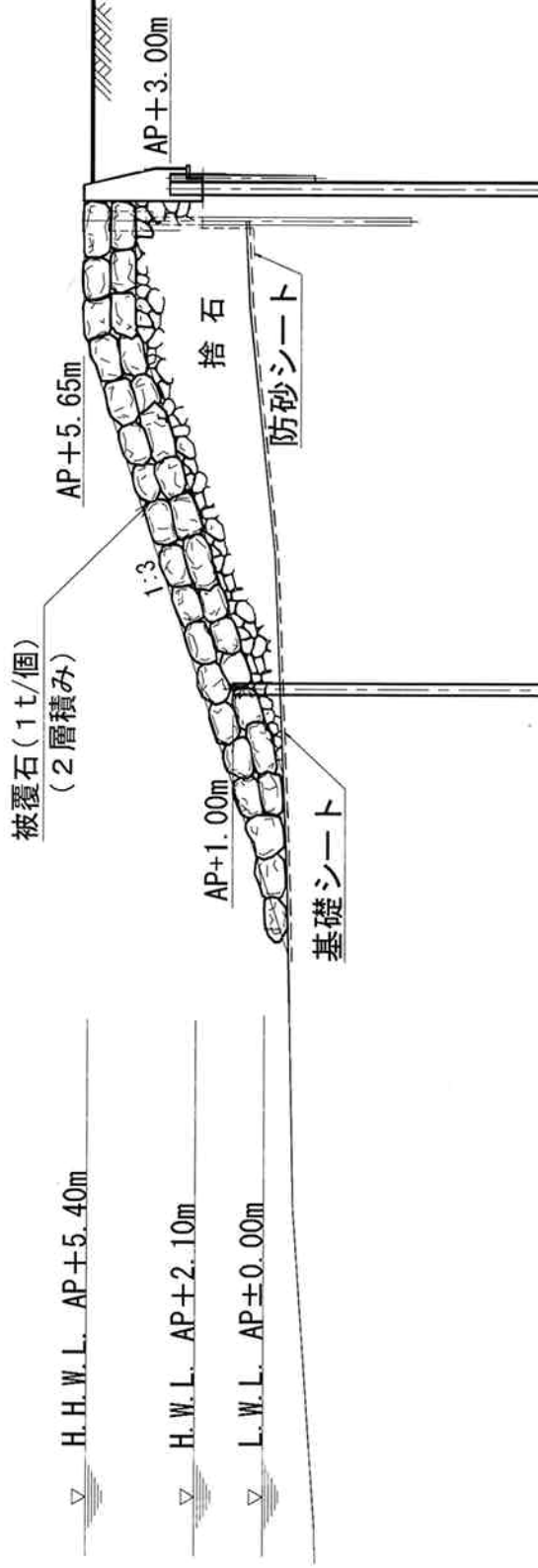
- ① 被覆方法を工夫し角張った断面形状を造らない（ハッキリとした護岸法線（稜線）を造らない）。
- ② 石の隙間に植栽をほどこし、殺伐感を緩和する。
- ③ 管理用通路を有効利用し、曲線的な遊歩道（プロムナード）を造る。
- ④ 事例等を参考にしてよりよい工夫を行うものとし、のり先部分は乱積みとして生き物に配慮していく。

### □バリエーション

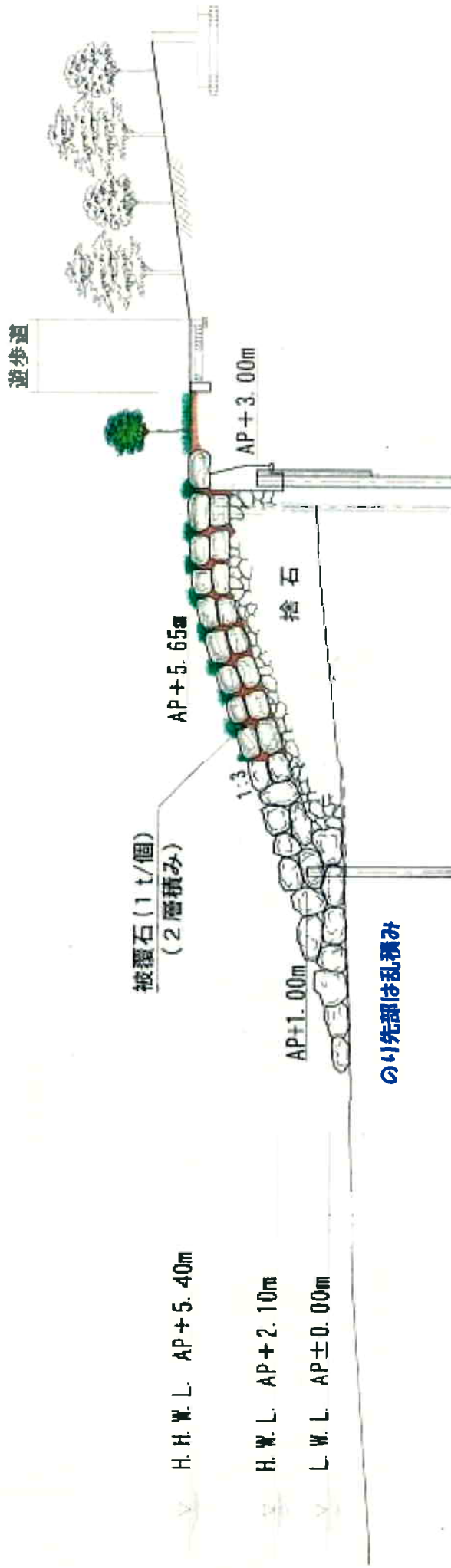
- ① 段差を利用したデツキを造る。
- ② シンボリックなスポットを造る。
- ③ 水際へのアクセスができるように階段部を造る。
- ④ マウンドを含めた一体的な整備を図る。
- ⑤ 自然観察デツキを設置する。

# 旧護岸基本断面図

## 実施計画書 AA断面 (護岸基本断面図 完成形)



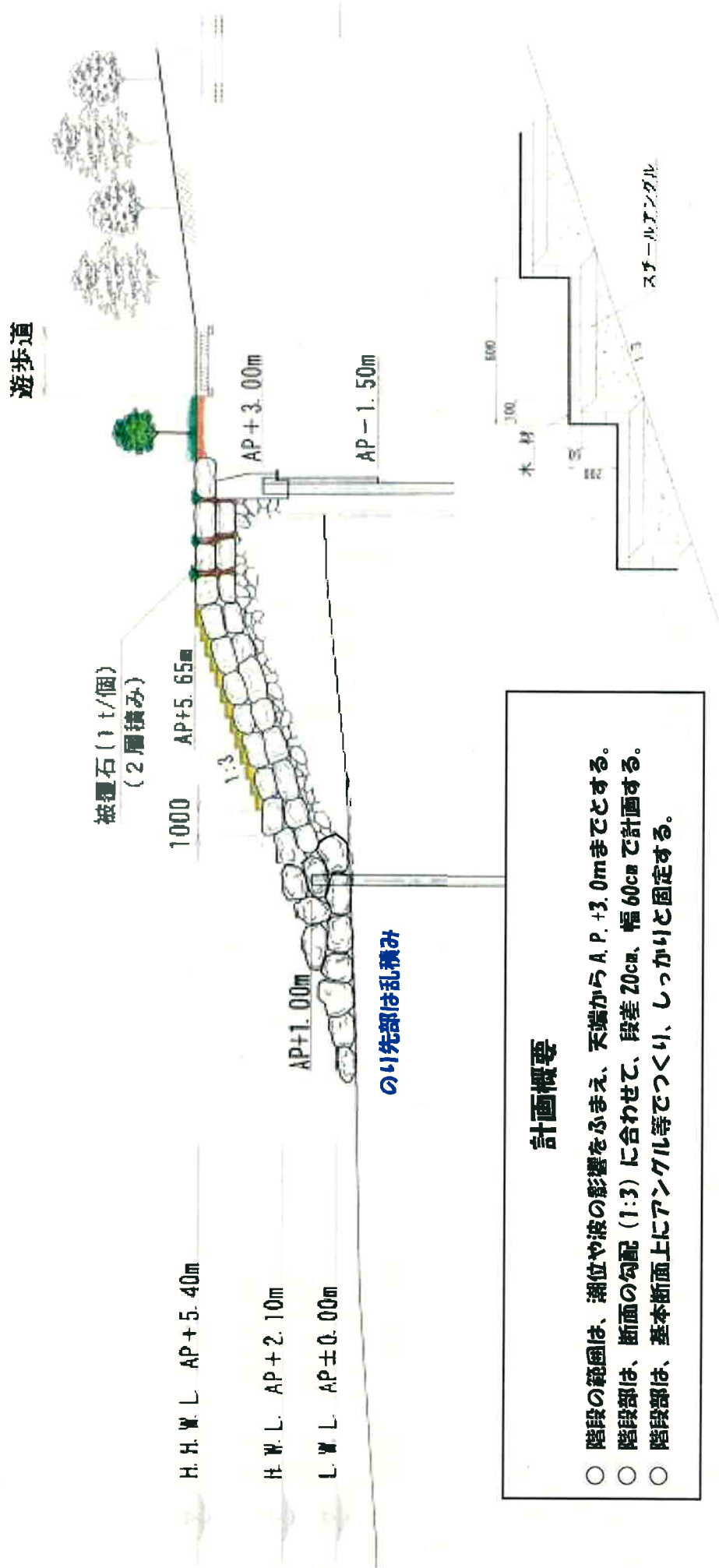
# 新護岸基本断面図 (案)



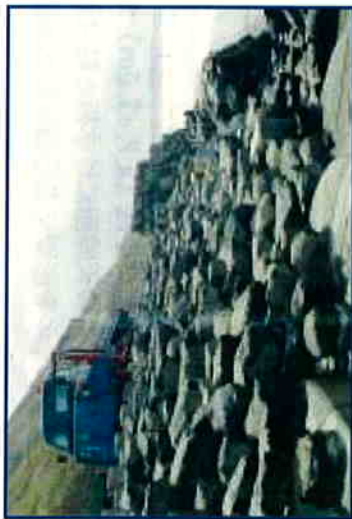
## 計画概要

- 被覆方法を工夫して角張った断面形状を造らず (ハッキリとした護岸法線 (覆線) を造ない)、全体的になめらかな形状とする。
- 石の隙間に植栽をほどこして人工感を緩和する。植栽の範囲は、潮位や波の影響をふまえて天端から A. P. +3.0m までの範囲とする。
- 護岸と遊歩道の間には立木も植えることを考える。

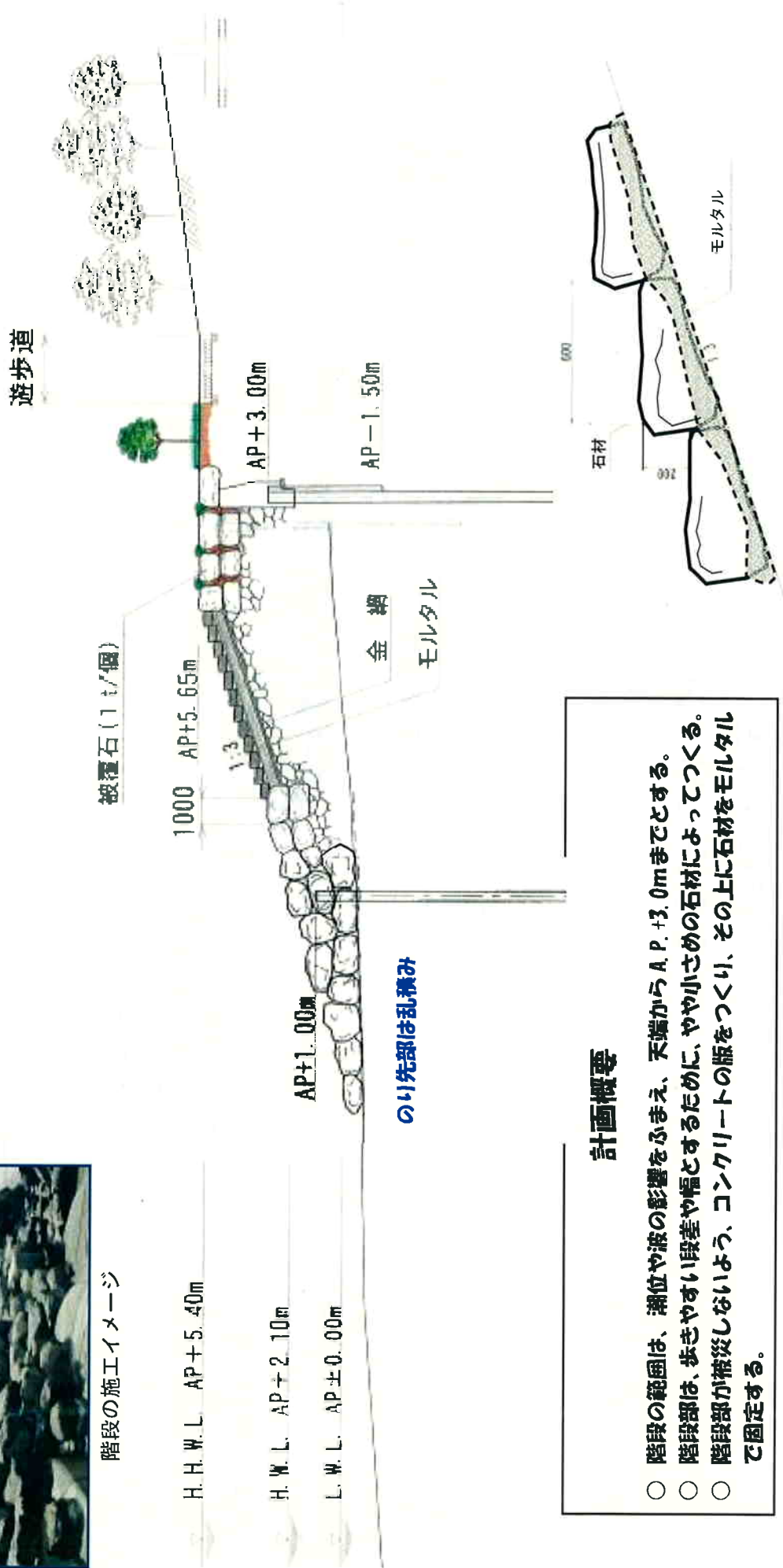
# 護岸バリエーション 階段 (木製)



# 護岸バリエーション 階段 (自然石) シンボルゾーン



階段の施工イメージ



のり先部は乱積み

## 計画概要

- 階段の範囲は、潮位や波の影響をふまえ、天端から A.P. +3.0m までとする。
- 階段部は、歩きやすい段差や幅とするために、やや小さめの石材によってつくる。
- 階段部が被災しないよう、コンクリートの版をつくり、その上に石材をモルタルで固定する。